# Code Orange

## —Save Life—


代表者　綾田亮（医学Ｂ３年）

構成員　永島健太（医学Ｂ４年）小川裕子（医学Ｂ４年）越前さやか（医学Ｂ４年）
加藤菜実（医学Ｂ４年）古原千明（医学Ｂ４年）
江見咲栄（医学Ｂ４年）木村貴一（医学Ｂ４年）
中村真（医学Ｂ５年）松隈悠（医学Ｂ５年）
寺田悟（医学Ｂ５年）有吉平（医学Ｂ６年）
山本章太（医学Ｂ６年）中島彰子（医学Ｂ６年）
鈴尾舞子（医学Ｂ６年）棚橋信子（医学Ｂ６年）
松尾欣哉（医学Ｂ４年）濱野弘樹（医学Ｂ４年）
吉村沙記（医学Ｂ３年）下川純希（医学Ｂ３年）
上原美香（医学Ｂ３年）岡本恵（医学Ｂ３年）
木村翔一（医学Ｂ３年）吉田陽（医学Ｂ３年）
瀬戸口尚登（医学Ｂ２年）


### １．２０１１年度を振り返って

2011 年度の活動は活動内容，目的，対象が多岐にわたった。今年度の活動を「2. 2011 年度の活動内容」に示す。これらの活動は，①医学部外，大学外へ向けての活動【2. の 1)，2)，7) -9)】②医学部内での活動【同 3)，4)】③他大学との交流【同 6)，7)，10)，11)】の 3 項目に大別される。医学部内での活動で BLS（一次救命処置）普及サークルのメンバーとしての基盤を形成し，その基盤をもとに医学部外または大学外へ向けての活動を展開した。また，他大学との交流により，より高度な技術や高いモチベーションを獲得，形成し，サークル全体の向上へとつなげた。団体として，活動の基盤を形成するために重要な一年となった。

### ２．２０１１年度の活動内容

1) 3rd 本学 BLS 講習会
2) 七夕祭
3) 部活動講習会
4) 医学科 1 年生フレッシュマンセミナー
5) 佐賀インストラクター向けワークショップ
6) 岡山 ACLS ワークショップ
7) ホームページ改設
8) 医学祭
9) 宇部駅伝自転車救急隊
10) 佐賀 ACLS ワークショップ
11) All 東海 ACLS ワークショップ
12) All 九州 ACLS ワークショップ
13) 組織体制の改編

### ３．医学部外，山口大学外へ向けての活動（３ｒｄ本学ＢＬＳ講習会，七夕祭，医学祭，宇部駅伝）

1) 3rd 本学 BLS 講習会

昨年度より行っている吉田キャンパスでの講習会を 6 月 4 日に理学部 14 番教室にて行った。受講者は 3 名で前回 2 回よりも少なかったが，受講者から多くの質問が投げかけられ，教えるだけになりがちな構成員にとって，刺激のある講習会となった。今後はどのようにして多くの受講者を募るかが大きな課題であったが，ポス

ターやチラシ配布などの広告活動を通して改善し，今後も吉田キャンパスでの講習会を続けていきたい。

2）七夕祭

7月16日，吉田キャンパスにて開催された七夕祭において，共通1番教室を使用しブースを出展した。ブース来場者は約100名であった。Code Orangeの大きな目標は一般市民への心肺蘇生法を含むBLSの普及であり，上半期においては七夕祭が最適な場となった。地域の方も多く来場されるということで，一般の方にも親しみやすく，よりBLSに興味を持つことのできる展示物を準備した（写真1）。希望者にはその場でBLSの簡単な講習を行った（写真2）。講習受講者は約30名であった。講習受講者に関しては，講習前後で心肺蘇生法に対する意識の変化を調査した（図1）。有効回答数は少ないものの，講習会後は講習会前と比して「100%自信がある」「75%自信がある」の割合が大きく増加しており，効果のある講習を行えていると考えられる。七夕祭全体を通して，対象が小学生から大学生，家族連れまで多岐にわたり，それぞれの目的や能力に合わせた講習が必要であることを構成員一同痛感した。この反省を活かし，医学祭での講習会に向けたメンバートレーニングでは，様々な受講者を想定したシナリオトレーニングに取り組み，講習会開始直後の受講者との会話からその人に合った講習会を行えるよう訓練した。

写真1　七夕祭展示物

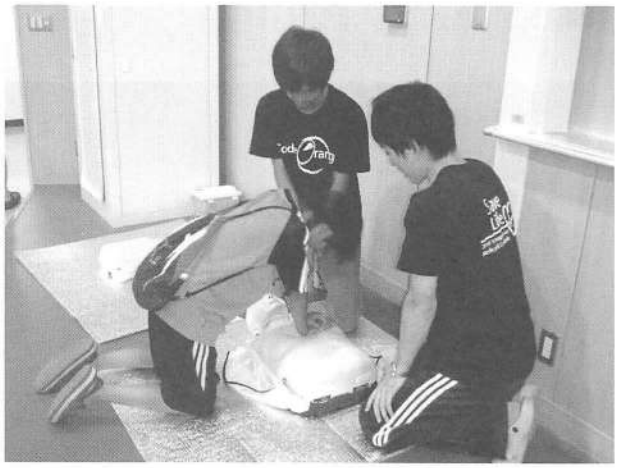

写真2　七夕祭での講習場面（受講者は中学1年生）

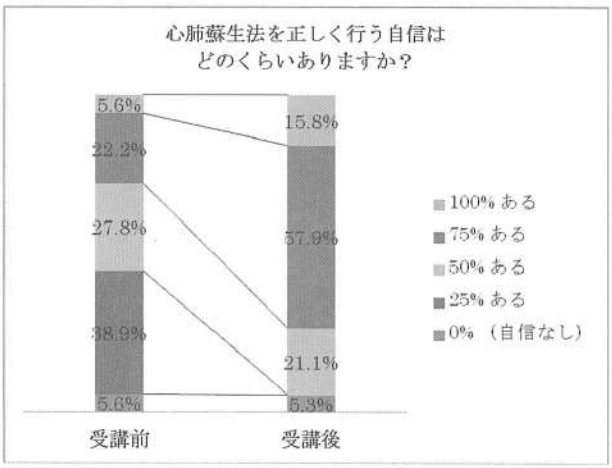


図1　受講前後の意識の変化（有効回答数　受講前18名，受講後19名）

3）医学祭（写真3）

上半期においては七夕祭が一般市民への心肺蘇生法を含むBLSの普及に最適な場となったが，下半期においては11月12〜13日に小串キャンパスで行われる医学祭がその場となった。おもしろプロジェクトの予算も，多くは医学祭で執行できるよう準備を進めた。BLSについてのイラストと簡単な説明を記載した持ち運び可能な「ポケットマニュアル」と，BLS（一次救命処置）手順を解説したクリアファイル，BLSの中で最も重要な胸骨圧迫を自宅でも練習でき，エコバッグの要素も兼ねる「多機能性胸骨圧迫トレーニングキット」を発注，作成した（写真4）。完成品については最終報告にて展示する。

幹部学年が企画したインストラクターとしての勉強会・練習会にも殆どの構成員が夜遅くまで参加した。今年度より，勉強会・練習会はA課程からC課程まで独自のカリキュラムを作成し、それに則り体系的に勉強した。また，各課程は細かく細分化され、たとえばA-2では成人BLS、A-3では小児BLSといったように、各分野の知識を漏れなく勉強できるように工夫した。A課程が終わるとインストラクターコンピテンシーについて学ぶB課程や，実践的な模擬講習会を行うC課程を行った。これらの体系的なカリキュラムを受講することで，初心者でも一人前のインストラクターへと養成するよう心がけた。11月12~13日の2日間で約200名の受講者に対して個別講習会を行った（写真5）。受講者の中には「毎年Code Orangeの講習を受けに医学祭に来ている」，「来年も受講できるのを楽しみにしている」との声を多数頂き，市民のニーズに少なからず貢献しているのではと感じた。救急科や麻酔・蘇生科、地域医療講座の先生方にも多数お越し頂き，指導内容の適切さや教え方の質的高さについて「想像以上」，「学生レベルとは思えない」，「ここまで学生だけで完成させているサークルは全国でも類を見ないのでは？」などという非常に高い評価を頂いた。あらためてこの活動を継続する意義を強く感じたイベントであった。

B課程のインストラクターコンピテンシーでは、七夕祭の反省点から、様々な受講者を想定したシナリオトレーニングも取り入れ、これまで以上にインストラクターとしての技術・知識を身につけることにも重点を置いた。今年度の医学祭前に行ったメンバー教育（ABC課程）については改良を加えつつ、今後も続けていく予定である。

写真3　医学祭・市民のための心肺蘇生法講座

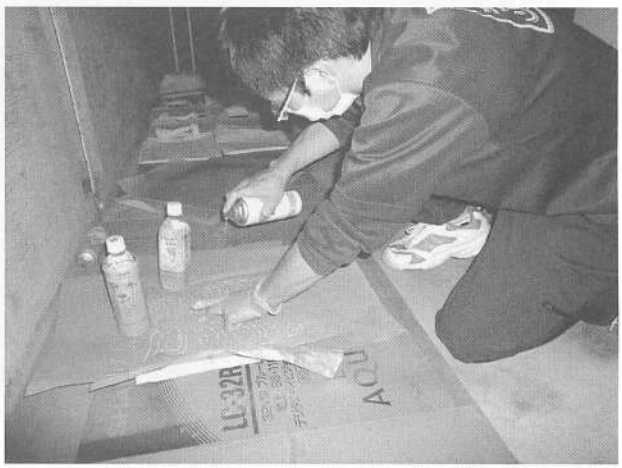

写真4　多機能性胸骨圧迫トレーニングキット作成場面

写真5　市民のための心肺蘇生法講座受付

4）宇部駅伝

新幹部での初の対外イベントとなった。2012年のテーマは「発信」であり，Code Orangeの存在を広く知ってもらい，また，心肺蘇生法に興味を持ってもらうため、構成員がラン出場もした。Code Orangeのメンバーが走っていることを目立たせるために広報・クリエイト部門が作成したオレンジ色の腕章をつけて走った。順位はおもわしくなかったものの、Code Orangeの存在をアピールできたと思う。

昨年同様、宇部市体育協会からの要請で AED の入った救急バックを背負い、コースを巡回する自転車救急隊を行い，救護テントにて心肺蘇生法講座を開催した。昨年に比べ，受講者数は少なかったものの Code Orange のホームページを通じて「再び受講したい，次の講習会はいつか」という問合わせが受講者からあった。しかし，当日の気温が低く講習会会場のコンディションは良好とは言えず，また，インストラクターの数が不足していたことは否めない。新たな反省点が多く，企画者・参加者で共有することで次のイベント，来年度の宇部駅伝に向けてフィードバックを行った。自転車救急隊，屋外での心肺蘇生法講習会についてはまだまだ質を高めることが可能であり，より密に企画していくことが必要だと感じた。自転車救急隊に関しては、他地区のマラソンへの出場依頼があったが，今年度は直前にお話をいただき，準備する時間，人員が足りず出場することはできなかった。自転車救急隊として参加することで，市民の方に心肺蘇生法を身近に感じていただけたらと思っている（写真 6)。

写真 6　自転車救急隊ユニフォーム

**4．医学部内での活動（部活動講習会，フレッシュマンセミナー）**

部活動講習会では医学部の部活動に所属する学生約 70 名の受講があった。受講学生 5〜8 名につき 2 名の構成員が対応し，BLS の流れやその中でも特に必要である胸骨圧迫と AED の使用方法について詳しく説明した。医学科 1 年生フレッシュマンセミナーでは，13 グループに分かれた医学科 1 年生約 110 名に構成員 13 名が講習会を行った。1 コマ 70 分を 3 コマ行い，1 コマあたり 3〜5 グループが講習を受けた（写真 7)。医学部内での活動においてはどちらも，顧問の笠岡先生をはじめ救急医学講座の教員が監督としてついており，講習内容や講習方法について適宜フォローをもらっている。したがって，構成員にとっても自分達の講習について改めて見直し，学外に向けての活動に生かす機会となっている。部活動講習会については、今年度までは学務課からの依頼であったが，来年度より医学部学生自治会と協力して企画・運営することになり、現在企画中である。

写真 7　フレッシュマンセミナー

## 5．他大学との交流

7月3日，佐賀大学にてインストラクター向けのワークショップ（勉強会）に参加した。九州地方の医療系学生約40名が集い，どのようにインストラクションを進めていくのか，どのようなインストラクションが効果的か，インストラクターとして必要な能力とは何か，ということについて考察，実践にて学んだ。また，9月17〜18日に岡山大学にてACLS（二次救命処置）ワークショップ（勉強会）に参加した。ここでは全国の医療系学生約200名が集い，BLSよりもさらに高度なACLSについて学んだ。この他にも，佐賀ACLSワークショップ（11月19日），All東海ACLSワークショップ（3月10~11日），All九州ACLSワークショップ（3月17~18日）にも，Code Orangeメンバーが参加した。学生ワークショップとはいえ，何度もインストラクターとして参加している他大学の学生も多く，Code Orangeの講習会においてインストラクターである構成員に必要なスキルについても多くのことを吸収した。ワークショップではBLS，インストラクターコンピテンシーについても勉強をし，他大学と意見交換をすることで，心肺蘇生法講習会へとつなげるよう努めた。

## 6．ホームページ改設

9月15日にCode Orangeのホームページ（http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~orange/index.html）を改設した（写真8）。活動の紹介やメンバーの紹介はもちろんだが，何よりもCode Orangeオリジナルの BLS解説動画が目玉である。単にBLSの流れを動画で流すだけではなく，一つ一つの手技の方法についても解説を添えており，この動画を見ることである程度の学習効果が期待できる。今まで行ってきた紙面での解説・復習にとどまらない新しい情報発信の方法だと自負している。現在、新たなPV・シナリオムービーを作成中である。また，SNSによる情報の発信も検討中である。

写真8　ホームページのトップ画面

## 7．組織体制の改編

医学祭終了後、幹部の引継ぎが行われ新たなメンバーでCode Orangeを運営することになった。活動の多様化と活動量の増加などから，2012年は部門制を取り入れることとなった（図2）。Code Orange全体を総務部門・プロジェクト部門・セミナー部門・広報クリエイト部門の4部門に分け，構成員には一つの部門に所属してもらうようにした。これまでの活動を部門ごとに分担して企画することとした。

部門制にした目的としては，幹部学年以外も活動に参加しやすくすることが挙げられる。2010年は代表・副代表が主体に，2011年は幹部学年が主体に行事に向け企画してきたがこれでは幹部学年以外の学年は企画の段階から参加しづらくなっていた。そのため，全学年，全構成員が企画から参加するようにするため，2012年は部門制をとることとした。各部門の部門長は幹部学年が務めることとしたが、企画はその部門に所属する構成員全員で行うようにした。部門ごとに活動が異なるので，自分が行いたい活動，自分の強みを生かせる活動に積極的に参加してもらうことを期待しており，すでに自分を生かし，救急用語辞典作成や心肺蘇生法シナリオムービー作成などに取り掛かっている構成員もいる。部門内で企画をする場合，そのイベントでのプロジェクトリーダーを決め，その人の司会・進行で企画を進めるようにしており，構成員の成長も期待している。

各部門を簡単に説明する。総務部門は幹部学年で構成し、学校や外部団体との連絡を取り年間の流れを把握，

情報共有を行う。プロジェクト部門は約 15 名で構成され，医学祭や宇部駅伝などでの講習会を企画する。セミナー部門は 10 名ほどで構成され，BLS やインストラクターコンピテンシーなどの勉強会の企画・運営を行う。広報クリエイト部門は 15 名ほどで構成され，HP 管理や，シナリオムービーの作成など外部に向けた情報発信を担当する。部門ごとで活動が活発になっているように感じるが，部門間の交流・協力が少ないようにも感じられ，改善すべき点もみられている。構成員の熱意と無駄にさせないためにも円滑な組織運営が必要となってきている。普及活動という結果が見えづらい活動はモチベーションの維持が難しく，活動の中でも事務的なことや，予算確保などの負担をできるだけ少なくすることも大切だと感じている。

図 2　組織図

**8．清掃活動**

医学生としての規範と献体をされた方々への感謝の意をこめて，1 ヶ月に 1 回程度の頻度で頌徳碑の掃除を行った。具体的には頌徳碑周りの雑草抜きや落ち葉の除去などである。活動をすることで，医学生としての意識が高まった。

**9．総括と今後の展望**

本年度は，外部に対する新しいイベント活動はあまりなかったが，基盤を固めるための重要な年であったと言える。各イベントの質を高めるために，構成員の勉強会や練習会のために体系的なものをまとめ，また，広報活動や参加者への配布物の作成もこれまで以上に行った。構成員も増加し、医学部を代表する巨大な組織へと成長しつつある。

今後の展望として，①医学部外，大学外へ向けての活動としては，他大学の学祭での心肺蘇生法講習会開催を考えている。②医学部内での活動としては，企画から任された部活動講習会，学内勉強会の開催を考えている。また，HP 上のムービーのシナリオを増やすことで受講者が復習しやすいようにするとともに，受講者のニーズに合った，受講者が遭遇しそうな場面（シナリオ）での心肺蘇生法についてのムービーの作成を行っていく。例えば、受講者がスイミングスクールで働いている場合だと，身体の濡れた心肺停止の傷病者が考えられ，その場合何が必要になるのかなどが分かるムービーをつくりたいと考えている。

どんなに進化したとしても、心肺蘇生法を普及させるという信念は変わることは無い。さらなる発展を目指して、来年度も活発かつ積極的に活動を展開していきたい。